

年間第21主日福音メッセージ
(ヨハネ 6:60-69)

受け入れがたい言葉ユダヤ人の多くは、イエスが父と一体であり、神であることを受け入れませんでした。ある人にとっては、キリストの神性は、彼らの準備ができていないほどの飛躍であった。イエスのメッセージはまだ彼らの心に浸透していなかったのです。そのため、キリストが聖体においてどのようにご自身をお与えになるかを説明したとき、彼らは躊躇しました。信仰の第一行為（キリストの神性を信じる）は、彼らが信仰の第二行為（キリストの聖体の現存を信じる）を行えるようにするために極めて重要でした。キリストがご自身について明らかにしたそれぞれの真実は、キリストがご自身について明らかにしようとしている他の真実につながっています。一つを受け入れられなければ、他の真理も困難になります。逆に、キリストについての知識、信仰、愛が深まると、私たちの霊的生活における他の困難も容易になるのです。

あなたも離れたいですか？キリストの真実と愛を受け入れるようにというキリストの招きは、常にただの招きです。キリストは私たちに自分自身を強制することはありません。キリストが提示する救いの真理はどれも、私たちが受け入れるかどうかは自由です。しかし、キリストは真理そのものなので、キリストに関するいかなる真理をも拒むことは、私たちに貧しくします。それは、キリストが私たちに与えるそれぞれの恵みについても同じです。この聖体に関する講話の後、キリストの弟子たちの多くが離れていき、彼に同行しなくなりました。キリストが自分に自由についてくるように招いたように、彼らも自由に行くことができました。しかし、彼らはキリストの復活の喜びを分かち合うことができるでしょうか？復活の喜びを分かち合うことができるだろうか？彼が約束した満ち足りた人生を受け取ることができるだろうか？キリストと一緒に歩まなくなったら、彼らの心が最も必要としているもの、望んでいるものを見つけることができるだろうか？すべての裁きは、神様の憐れみだけに委ねられています。

私たちは誰のところへ行くのかペテロはすでにキリストの神性を信じていました。"私たちは、あなたが神の聖なる方であることを信じ、確信するようになりました。"キリストが教えたり言ったりすることは、たとえそれが自分の理解できないことであっても、ペテロは受け入れることができました。ペテロはキリストへの信頼と確信があったからこそ、本題に入ることができたのです。どこに行っても、誰のところに行っても、何の得にもならない。たとえキリストと共に歩む道が、曖昧で大きな苦しみを伴うものであったとしても、ペテロが他に良い方向に進むことができるだろうか。

ウィル神父